



安城特別支援学校の1年

安城特別支援学校(安城市桜井町) 高等部三年生の就職活動も、いよいよ大詰めだ。新型コロナウイルス感染症の影響に翻弄(ほんろう)されながらもこれまで、企業実習などで粘り強い頑張りを見せてきた。今年の高校生の採用試験の解禁日は、例年より約一カ月遅れの十月十六日。試験に挑んだ生徒たちの下に内定通知が届き始めた。(四方さつき)

### 10月・内定への道 ①

目の前に迫った採用試験 交互に務め、アドバイスしに向け十月七日午後、面接 合った。「声が大きすぎる練習に励む高等部三年生」と、逆に何を言っているか十人の表情は、ぐっと引き 分らないよ」「どうして締まって見えた。六月の練習では、緊張で学校名を言 間違えたり、右手と右足 が同時にしたりするなど、不安や戸惑いを見せた生徒も多かった。努力するなかで少しずつ手にした自信は、顔つきまでも大きく変えた。

十月の練習では、面接官や評価者の役も生徒たちが

# 面接に向け 懸命に練習



に合格したい」「皆で頑張ろう」という熱い思いがあふれていた。「緊張すると頭が真っ白になって何を言うか忘れちゃったり、声が小さくなっ

たりするから気を付けてね」。友人に具体的な助言をしていたのが前田愛実さん(もだ)。

前田さんは七日午前、進路指導主事の説田智洋教諭(安城市桜井町)で人事担当者らとの打ち合わせに臨んだ。二週間足らずに迫っ

①交互に面接官役となって練習する生徒ら ②面接のことについて黒岩教諭(右奥)の説明を聞く生徒ら いずれも安城市の安城特別支援学校で

た面接当日の集合時間や持ち物などを確認。担当者から「本番では、実習の時に感じたことや、ここで働きたい思いをしっかりと伝えてほしい」と励まされた。コロナ感染拡大で採用数を抑えたり、実習の受け入れを中断したりしている企業もある。デンソーエアシテムズの担当者は「多くの会社で人事戦略が大きく変わり、採用にも変化が出ている。今から就職する人々には激動の時代」と説明。だからこそ「一緒に頑張ってくれと思える人材がより一層求められる」と強調した。

生徒たちは例年とは違う苦労を経験しながらも、実習や日々の授業の中で「こつこつと努力を積み重ね、採用試験へとこぎつけた。生徒たちの練習を見守っていた担任の黒岩愛里教諭は「マスク越しでも笑顔が感じられるようにしようね」「この子と一緒に働きたいと思ってもらえるのが大事。自分のキャラクターを出して挑んで」と生徒たちに最後のエールを送った。